

まんのう町教育委員会だより

爽そうふう風

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 29

令和4年【2022】

2月1日 発行



特集 「読書を楽しむ学校」をめざす

Contents

P.6～7 園・学校ウォッチング
満濃中学校・長炭こども園

P.8 ホットニュース
P.9 シリーズ「声」

P.10～11 こども美術館

「読書を楽しむ学校」をめざす

「読書活動の推進」は、まんのう町教育委員会が学校教育実践指針の中で今年度の重点として挙げている項目の一つです。

毎日足を運びたいくなる魅力的な学校図書館で、喜々として本を手に取り、夢中になって読みふけるーそんな子どもたちの姿をめざして、それぞれの学校で、それぞ

れに工夫を凝らした取り組みが行われています。

今回の特集では、子どもたちの知的好奇心を満たすことができる「夢いっぱい場所」となることをめざして日々進化を続ける学校図書館の姿と、自分たちの手で読書活動を活発にしていこうと取り組む、各校の図書委員の活動を紹介いたします。

進化を続ける 学校図書館へ

Let's go!



学校図書館へつながる廊下には興味を引く掲示があり、子どもたちを楽しく学校図書館へと誘う

学校図書館



▲ 入り口にも
楽しい出迎いの工夫が…



▲ 書架は常に整頓され、本が整然と並んでいる



▲ リラックスして読書ができるスペースもある



新しく入った本



テーマで分類された本



授業に関する本



学校司書おすすめの本



季節や行事の本

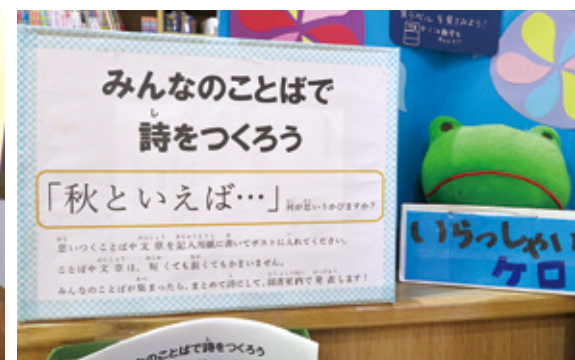
同じ仲間の本を集めたコーナーは、読みたい本を探すのに便利

▲ 平成30年度からバーコードによる貸し出しを開始
貸し出し状況を早く正確に記録できるようになった

こうした魅力ある学校図書館づくりは、平成28年度から各校に配置されている学校司書の努力によるところが大きいです。



▼ 様々な企画も楽しみの1つ



こども園の絵本コーナーも、年々充実しています。





おすすめするには、
図書委員もしっかり
本を読まないとい
けないよね



やったあ。
かわいいしおりを
ゲット!

賞状だけでなく、心
をこめて作ったしお
りなんかプレゼント
するよ

読書を頑張った人
を表彰



喜んでもらえる、いいな

心をこめてしおりづくり



上手に読み聞かせを
するための練習もす
るよ

ぼくは、『きらめく船があるところ』という本を読み聞かせしました。6年生に読み聞かせをするので、心がきちんとこもるように練習しました。
読み聞かせが終わったとき、ホッしました。
長炭小 5年 長野翔士

読み聞かせ



本の整理や
修理



本の貸し出しも
大事な仕事だな

読書活動を推進する 図書委員の活躍



子どもたちが、学校生活をより楽しく充実したものにするために必要と思われる学校内の仕事を分担し、自治的に取り組んでいくのが「委員会活動」です。教師の手伝いに終わることなく、自分たちで考え、アイデアを出し合いながら主体的に活動することを大切にしています。

図書委員は図書委員会に所属し、自分たちの読書活動が盛んになるよう工夫をしながら、それぞれの学校で特色ある取り組みを行っています。(満濃中学校では、「広報常置委員(会)」という名称です)

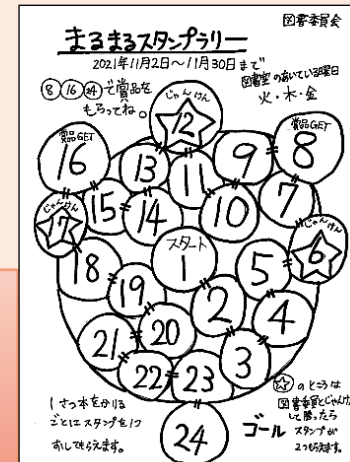


イベントの企画

七夕読書月間
来館者は短冊に
願い事を書くことが
できる

スタンプラリー
ゴールすると、素敵な
プレゼント
●手作りのしおり
●本を1冊多く借りられ
る券

読書を好きになっ
てもらえるように
工夫しているね



スタンプラリーカードに
せっせとはん押し

しおりを全種類
集めたいな

昼休みは
学校図書館へ
行かなくちゃ!

仕事体験が
当たるまで、何度でも
挑戦するぞ!



人気のイベントには長い行列が...

ドローイングチャレンジ
昼休みに学校図書館で本を借り
ると、1回くじ引きができる
当たったら...
●もう1冊、借りられる
●図書委員の仕事体験
●しおり・カレンダーのプレゼント

今年度本校では、めざす生徒像として、校訓である「向学」「誠実」「信愛」を受け、
・知的好奇心をもち、主体的に学ぶことができる生徒
・素直な心をもって人や物事に接することができる生徒
・なまを信じ、ともに成長できる生徒
を掲げています。

「おはようございます」
爽やかな朝の挨拶が校内中に響き渡り、満濃中学校の一日が始まります。満濃中学校は、各学年5クラスの計15クラス、全校生徒459名で活動しています。

授業を通して教材と、級友と、教師とつながる

「GIGAスクール構想」を受け、今年度から生徒一人に1台配置されたタブレット。調べ学習を行う、級友と意見を交わす、Zoomで教員とつながる等、知的好奇心や探究心をもって学べるように、各教科で積極的に活用しています。
タブレット以外にも、電子黒板などICT機器を用いて、生徒が主体となって課題解決に向けて取り組めるようにしています。ICT機器には、関心や意欲を高める、画面を活用することによって分かりやすく説明できる、カメラなどを使って瞬時に情報を共有できる等の利点があります。これらを生かして、今後も「できた」「わかった」という喜びを実感できる授業に取り組んでいきたいと思ひます。



タブレットで学び合う

学校行事を通してなままとつながる

5月には、生徒会スローガン「昌和※1」共にさらなる高みへ」のもと、春季大運動会を開催しました。密を避けるため、学年団ごとに競技や演技を披露していきました。全クラスが100回を超え、1年生のパワーを感じさせた「大縄跳び」。創作した人たちの思いも乗せて、見る者



さわやかな歌声を響かせる1年生

の心動かす踊りを披露した2年生の「南中ソラン※2」。この運動会が中学校最後になる3年生は、3年間積み上げてきた「大縄跳び」で迫力ある姿を、演技「剣道」では凛とした勇姿を披露し、最高学年としての自覚が伝わってきました。
9月には、奏風祭を行いました。日頃の練習から感染防止対策を講じ、当日を迎えることができました。

学級で指揮者、伴奏者、パートリーダーを中心に長い時間をかけて合唱を創り上げる中で絆も深まり、迎えた当日。1年生のさわやかな歌声、2年生の気持ちのこもったハーモニー、3年生は圧倒的な表現力を発揮しました。生徒と教師がともに創り上げた歌声は、ど



なかまとともに つながり 高め合う 満濃中学校
～できないと諦めることなく できることを考える満中生～
庁舎前でひまわりの種まきボランティア

部活動を通してなままとつながる

満濃中学校は暑い夏になりました。2年ぶりに総体やコンクールが開催されたからです。そこでは、日頃の練習の成果を存分に発揮して全力で戦い、最後まで諦めない3年生の姿が見られました。また、今まで応援・支援してくださった方々や、大会が開催されたことへの感謝の思いも表れていました。結果は様々でしたが、一つの目標に向かって100%の力を出し切った姿は素晴らしいです。

ボランティアを通して地域とつながる

校内清掃や図書館ボランティアといった校内のボランティアだけでなく、校外での公民館恩返しボランティアや交通立哨ボランティアなどにも、多くの満中生が参加しています。ボランティアをして、地域の方をはじめ様々な方から「ありがとう」「助かったよ」と感謝されることで、やってよかったと、自己有用感を高めることができます。

※1(しょうか) 生徒会が全校生に募り決定した。「昌(明るくて盛ん)」「和(まとまり)」という2つの言葉からなる。困難に負けず、ともに目標に向かって進んでいこうという願いも込められている。
※2(なんちゅうソラン) 北海道稚内市立稚内南中学校の教員と生徒が考案したこと、が名前の由来。全国の学校で広く踊られている。

心を動かして感じる

子どもは、身の回りにあるもの全てから様々な感じ、心を動かしています。子ども園の生活でも、子どもたちが心を動かしている姿が随所に見られます。

たとえば、園庭にただよふ金木犀の匂いや風の冷たさ、吐く息の白さから、季節の移り変わりを感じています。そして、感じたことを、

「あーなんだか、いい匂いがするー」「ほっぺが冷たいー」「はあーって、やってみてー」と、周囲へ発信します。一人の発見や気づきから、生活に季節感や潤いが醸し出され、それがまた、新しい遊びへとつながっていくこともあります。

また、子ども園の癒しの存在「だいふくちゃん」。大きなくりくりした瞳がチャームポイントのうさぎです。

子どもたちの色々な思いをそのまんま受け止め、ふわふわしたあたたかさで包んでくれます。子どもたちにとって「だいふくちゃん」は、心が通じ合い、安心できる居場所になっているのです。

ですから、保育者に手作りのうさぎの耳をつけてもらっただけでうさぎになりきり、サークルの中を「だいふくちゃん」と一緒にピョンピョン跳ね回ります。自分もうさぎだと思っているに違いありません。



仲良しの だいふくちゃん



じゃんけん ぽん!

風が 冷たいよ

ふれ愛 かんじ愛 つながり愛

～豊かな日常を積み重ねて～

長炭こども園



不思議さに気づいて

日ざしが差し込む窓の方をじっと見ている子どもの姿をしばらく眺めていると、その瞳がふっと動き、大きく見開いたように感じられました。「何だろう?」少ししゃがんで、その眼差しの先を見ていると、その子どもの影が床に映し出されていました。さりげなく手で狐の影をつくってみせると、「あー」という声とともに、何とも言えない嬉しそうな笑顔。

子どもたちは、それぞれ独自の視点で世界を見ているのだと感じます。だから、それぞれに生活の中で発見したり気づいたりすることがあります。その発見や気づきとともに驚き、楽しむ仲間がいて、それがどんどん広がっていくことは、遊びの豊かさにもつながっていきます。

「あれっ?何だろう?」その子が気づいていることを同じように見て、同じように感じようとしながら、その気持ちに寄り添えることを、私たち保育者は、大切にしたいと思ひます。

触れ合っている

もも組(0歳児)の保育室には子どもたちが見つけたお気に入りの場所があります。誰か教えた訳でもないのですが、この部屋で過ごす子どもは、その場所に来ると足を止めて、ピタッと顔をドアのガラスにくっつけて、ガラスの向こうを覗き込むうとします。そう、ここから外が見えることを見つけたのです。しばらくすると、それに気づいた子どもが一人、二人とやって来



向こうが見える...

て、みんな顔をピタッとくっつけて、お互いを見合っている。言葉はなくても、嬉しい気持ちを通じ合う瞬間。なんとも微笑ましい光景なのです。
また、ばら組(5歳児)は、就学時健康診断など就学に向けた経験をして、小学校への期待が膨らむ一方、ちょっぴり不安も入り混じる時期です。そんな子どもたちの気持ちを日々感じながら、運動会のお礼状を届けに、ばら組全員で小学校を訪問しました。玄関では、緊張感でいっぱいの子どもたちに校長先生が、「運動会、よく頑張ったねーはなまるー」にこやかに、そしてユーモアたっぷりに、大きな丸を作って迎えてくれました。みるみる子どもたちの表情が和らぎ、笑い声が響きました。
子どもたちの気持ちをしつかりと受け止めて対応して下さった校長先生と子どもたちの心が、笑顔でつながっていくことを嬉しく感じました。



よく頑張ったね、はなまる!

もの・こと・ひとに触れ合っている子どもたちの心が躍り、揺れ、震え、弾む。その体験が、やがてこれからの時代を生きる子どもたちの原動力になっていくのだと思います。いつも温かく見守り応援して下さる保護者や地域の方とともに、子どもを育ちを支えていけるつながりを大切にしていきたいと思ひます。



シリーズ『声』

第15回 近づく「巣立ちのとき」

平成3年度も残りわずかとなり、中学3年生、小学6年生、こども園等の5歳児は、まもなく一つ上の学校へと進学します。

今回は、卒業、修了の日を間近に控えた担任の先生に、子どもたちを送り出す思いを書き綴ってもらいました。

「23人が力を合わせたなら、なんでもできるんやな」
「発表会もみんなで力を合わせてがんばろう！」
と話し合う姿や、みんなで踊れた瞬間、友だちが言葉を言えた瞬間に沸き起こった温かい拍手に気持ちがひとつになったと感じ、私自身も胸が熱くなりました。

これから慣れ親しんだこども園を修了し、新たな環境へ羽ばたいていく子どもたち。大きな期待を抱いているのではないかと思います。ただ少しだけ不安になった時は、一緒に過ごした友だちが傍にいたこと、友だちや先生と過ごしてきたこれまでの日々を思い出し、安心して一歩を踏み出して欲しいと願っています。

残り少ない子どもたちとの日々で自分は何ができるだろうと考えるながら過ごしていきたいです。こども園から応援しています。ファイト！



高篠こども園 あお組(5歳児)担任 吉田 優子

「みんなと一緒に小学校へ行けたらいいのにな」と、修了が近づいてくるといつも思います。年中組から一緒に進級し、これからどんな1年を過ごしていくのだろうと期待とともにスタートした4月。今思い返すと、この1年で心も体も大きく成長したなと嬉しく感じます。

年長組になって子どもたちが一番楽しみにしていた9月のチャレンジ保育。友だちと次々にミッションをクリアしたり、隠されたメダルを見つけようと謎解きに奔走したりと、諦めずにチャレンジしました。クラスみんなが大好きな絵本『11ぴきのねこ ふくろのなか』の言葉「みんなで ちからをあわせれば、このよに こわいものはない」を友だちとかけ合う姿があちこちで見られ、みんなで力を合わせるこの楽しさに気づいたようでした。

そして、12月の生活発表会に向けて劇遊びをしていたある日、友だちがなかなか言えなかった劇中の言葉を初めて言えた時に自然と拍手が起きました。

みんなで力を合わせたら なんでもできるんやな

卒業式が近くなると、子どもたちから「あつという間だった」という声が聞こえます。その後には、「みんなと離れるのは寂しい」「〇〇に行っても仲良くしようね」という言葉を多く聞きます。その様子を見ると、学校で経験する人と人のつながりは本当に大切だと感じます。

学校での生活は、「一人でできること」もたくさんありますが、「一人でできないこと」は、さらに多くあります。

例えば、運動会や学習発表会などの行事、給食の配膳、委員会・クラブ活動、さらに授業中の学び合いの場面等です。子どもたちは互いの気持ちを理解し合い、協力をしながら様々なことにチャレンジしたり、困難を乗り越えたりしています。また、友だちと学び合うことで、考えが深まったり新たなことを発見したりすることができます。子ども達の頃からこそ感じられる、肌感覚の人のつながりは、これからの新しい社会を生きていく中で、とても大切な力のひとつになります。

高篠小学校6年生の、学年便りのタイトルは「自立友支」です。これは、「自分は自立し、友を支える」という、個人の成長と友だちとのつながりを期待して、隣のクラスの田中先生と作った造語です。

日々接している43名の子どもたちは、とても優しく友だち思いで、相手の気持ちを大切にすることができず。その姿が見られるのは、これまで育ててきた環境の中で培った心の優しさであり、家族からの愛情の賜物です。それに加えて、「自分がするべきことは適切に判断して、助け合って行動する」という、子どもたちの成長の姿でもあります。まさに、「自立友支」でつながる姿です。

今は、いつも一緒にいる友だちですが、大人になると遠く離れてしまつことも多くなります。しかし、これまで一緒に過ごした大切な時間は、消えることはありません。みなさんの心の中に残り続けます。人と人がつながる場所である「学校」での思い出とともに。

卒業後のみなさんの活躍と、さらなる成長を応援しています。



高篠小学校 6年東組担任 竹内 泰大

人と人がつながる場所「学校」

新人戦も 大健闘!! 満濃中の部活動



■ 都市新人大会

(団体の部：優勝・準優勝)

部 活 名	結 果
剣 道	男子 優勝
	女子 優勝
軟式野球	優勝
バレーボール	男子 優勝
	女子 優勝
卓 球	男子 準優勝
	女子 準優勝
ソフトテニス	男子 準優勝
	女子 準優勝
バスケットボール	準優勝
ソフトボール	準優勝
サッカー	優勝
柔 道	男子 準優勝

(個人の部：優勝)

部活名	男子	千葉康太郎
剣 道	女子	松岡 陽奈
	男子(66kg以下級)	西井 拓斗



第4回 MIEA 英語朗読コンテスト

(R4.1.8：かりん会館)

※MIEA：まんのう町国際交流協会

今年で4回目を迎えたこの英語朗読コンテストは、あらかじめ提示された課題の英文を3分以内で朗読し、その発音や表現力を競うものです。今年には町内6小学校から4～6年生17名(4年生5名、5年生5名、6年生7名)が参加し、練習の成果を披露しました。

今年の課題は

“Manno observatory and the mysterious space” (まんのう天文台と神秘的宇宙)

「マンノウチョウ」と名付けられた小惑星を紹介し、大川山にある「まんのう天文台」で宇宙の神秘に触れてみましょうと呼びかける内容です。

審査の結果、右記の2名が最優秀賞に選ばれました。



最優秀賞 5年 岡田 笑愛(長炭小)
4年 道西あおい(仲南小)

指導者：
香川大学創造工学部 鶴町徳昭教授



テーマ
～音で遊ぼう～

「子ども未来夢基金」活用事業

コロナ感染予防のため、芸術鑑賞と音楽教室は、昨年度に続き見送りとなりました。

科学体験教室

花 育

毎年小学校2校で実施
今年度は満濃南小(11/24)と四条小(12/21)



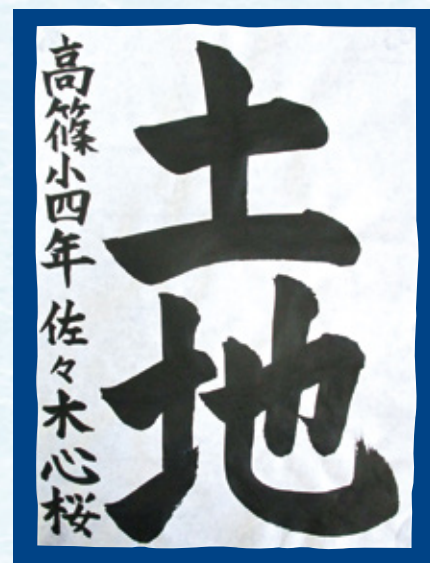
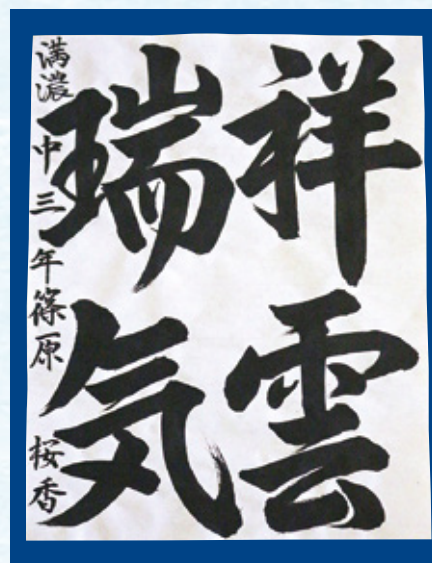
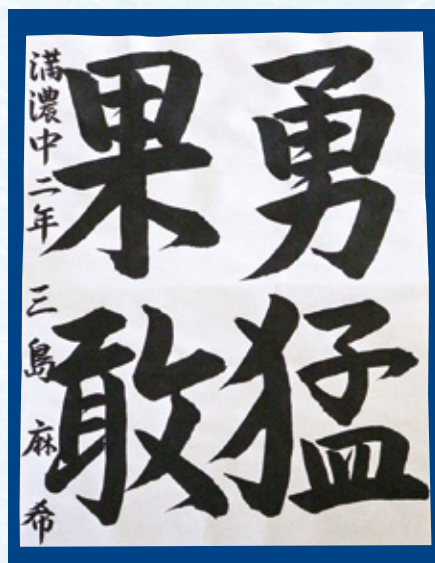
糸電話で、音の伝わり方を実験



すべてのこども園で
秋と冬に1回ずつ実施



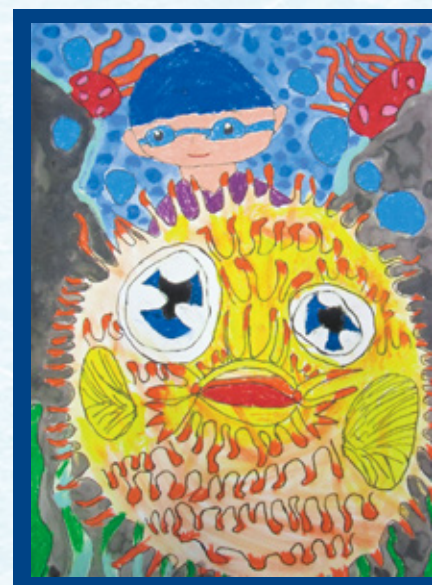
これは「スプレーカーネーション」



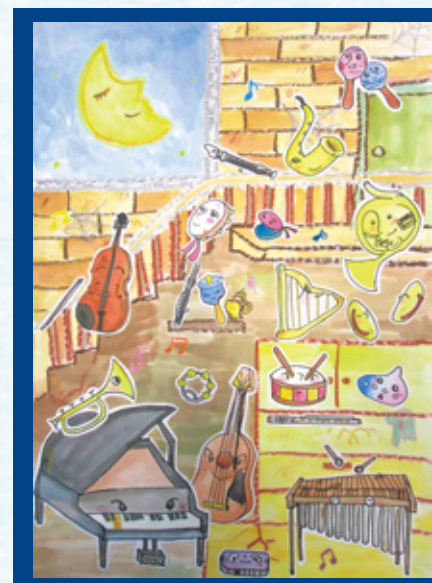
『雨上がりの空』
満濃中3年 弘瀬 日々季



『なべしき』
満濃中2年 松岡 陽奈



『とびだせ！ハリセンボン』
高篠小2年 込山 潤海



『こわれた千の楽器』
高篠小5年 藤川 心緒



『私の見た風景』
長炭小6年 高橋 愛紗



こども美術館

『令和3年度香川県小・中学校
総合文化祭展覧会』に、仲多度・善
通寺地区の代表として出品された
作品です
(R4.1.14~1.16 高松市美術館)



『リボンのぼうし』
満濃南小2年 岡崎 千愛



『雨の日 輝くスイレン』
高篠小6年 中家 亜音





今月の一枚

生徒会役員を選ぶ
清き一票

満濃中学校

編集後記

かつて、5歳とは思えない演技力で「天才子役」と呼ばれた女優の芦田愛菜さんは、中学受験を経て難関校に進学したことで話題になりましたが、無類の本好きで知られています。読書をするのは、歯磨きをしたりお風呂に入ったりするのと同じくらい日常の一部だという愛菜さん。ご両親は、ものすごく小さい頃から、図書館でいろいろな絵本を借りてきては読み聞かせをしてくれたそうです。2019年に、『まなの本棚（小学館）』という、お気に入りの本を紹介する著書も出版しました。本と学力には、いったいどんな関係があるのでしょうか。

昨年5月に実施された今年度の全国学力・学習状況調査では、質問紙調査の中に家庭の蔵書数を問う項目が加まりました。「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）」というこの問いは、児童生徒が持つ本の冊数を問題にしているのではなく、「蔵書」を家庭環境の一つととらえ、学力との関係を見ようとするものです。

分析結果では、家の蔵書数が多いほど教科の平均正答率が高くなる傾向が明らかにされました。それは国語に限らず、算数・数学でも同様だったのです。

このような調査は、これまでも行われています。例えば、オーストラリア国立大学とミネバダ大学の研究者が2011～2015年に31の国と地域で25～65歳16万人を

対象に実施した調査でも、「16歳の時点で家にあった紙の本の冊数と、大人になってからの読み書き能力、数学の基礎知識、ITスキルの高さは比例する」という結果が出ました。さらに興味深いのは、この結果について、単純に「本を読む」ことでこれらの能力が伸びたとは言えず、何が利点になっているのかを特定するのは難しい、しかしながら、「子どもたちが、親や他の人たちが本に囲まれている様子を目にすること」が大切だとしている点です。

このように、本と学力の関係は複雑で謎に満ちています。読書をすれば、語彙力、読解力、想像力…様々な力が身につくとも言われますが、それは結果としてつくのであり、そのことを目的にしてしまえば、本来、楽しみであるはずの読書をつまらないものにしてしまうでしょう。

芦田愛菜さんは、読書の魅力を「自分の想像で物語の世界を作り上げていく楽しさ」「自分とは違う誰かの人生や心の中を知ること」と語っています。本の中で出会ったたくさんの人や出来事、様々な見方や考え方は、多様な視点や価値観を与えてくれます。そして、読み手の心を解き放ち、柔軟にしてくれます。広い視野と自由な心を育てていくことは、人生を豊かに生きていくうえでとても大切なことのように思えます。

(Y. T)

表紙絵：東山 正章（元満濃中学校長）

次号予告
(4月1日発行)

特集 学校は どう変わってきたか

図・学校ウォッチング

長炭小学校・琴南こども園